

阿茶院本草和歌

和書門	一七五	一六	二六	一六	二六
類	函	架	冊	架	冊

内閣文庫	一七五	一六	二六	一六	二六
和書	函	架	冊	架	冊

物産

内閣文庫	番號	和	17586
	冊數	2	(2)
	函號	196	172



裏面記載のない箇所は省略
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

成 壬

阿蘭陀本草和解

淺草文庫

五十四 イシミカハ 百一 イペリコシ 二百十五 サクナ草

二百廿 馬鞭草 二百卅 ツボスミシ 二百五十一 山リンドウ

二百八十 ケイトウ 三百三 白ユリ 三百十二 カタクリ

三百八十四 イチハツ 三百九十七 菖蒲 四百六 紅ワウ草

四百廿一 日ニハリ 四百七十七 茴香 四百八十 ア子ノズ

四百八十五 胡荽 五百廿二 青木香 五百廿六 延胡索

五百廿八 茅 五百四十五 香附子 五百五十八 萎蕤

六百七十五 忍冬 七百十 白頭翁

五



ア、テン
イ子 阿蘭陀名 和名 イシミカハ
ラテン名 漢名 扛板歸

一性温

一此草ヲ煎シ小瘡及痛所ヲ洗テヨシ

一葉バカリ油ヲ取外ノ油ニ交セ合痛所ニ附テヨシ

一此草ヲサツト煎シ飲ハ風邪ノ熱ヲ去ニヨシ

一莖葉花氏ニ搗テ頭痛ニ頭額ニ附其上ヲ木

綿ニテ縛シキテヨシ

一又目痛ニモ同前ニシテヨシ

一此草ヲ煎シ經水滯タル婦人ニ用テヨシ

一又積聚アルモノニ用テヨシ

一 阿蘭陀人常ニ 飲ハ酒ナリ ニ 此草ノ煎シ汁ヲ等分ニ

シ喉ノ痛ニ用テヨシ

一此草ノ煎シ汁ニテ膏菜ヲ練リ一切ノ痛

所ニ附テヨシ

阿蘭陀流ノ外科從來ヲトキリ草をイツ
ペリコント唱ハシ用未中此御本を以てお尋
ハ上品ノイツ。リコン此邦にお見ふ中ハな
代葉ニハリツホウイノ切草を用紙お尋中

阿蘭陀名

ラテニ名

一此實ヲ十四五日ホド用ユレハ身内ノ痛ニヨシ

一又婦人經水ノ滯ルニ用テヨシ

一又小便ノ澁ルヲヨク通ス

一此莖葉氏ニ刻ニ腫物又摺疵ニ附テヨシ

一又火傷ニ葉ヲモミ付テヨシ

綿ニテ縛シキテヨシ

一又目痛ニモ同前ニシテヨシ

一此草ヲ煎シ經水滯タル婦人ニ用テヨシ

一又積聚アルモノニ用テヨシ

一 ア 阿蘭陀人常ニ 飲ハ酒ナリ ニ 此草ノ煎シ汁ヲ等分ニ

シ喉ノ痛ニ用テヨシ

一此草ノ煎シ汁ニテ膏菜ヲ練リ一切ノ痛

所ニ附テヨシ

百一

イツペリコン

阿蘭陀名

センキヤンスコロイト

ラチン名

一此實ヲ十四五日ホド用ユレハ身内ノ痛ニヨシ

一又婦人經水ノ滯ルニ用テヨシ

一又小便ノ澁ルヲヨク通ス

一此莖葉氏ニ刻ニ腫物又摺疵ニ附テヨシ

一又火傷ニ葉ヲモミ付テヨシ

百二

ケレーンイツペリコン

右同前ノ内品劣ル前ノ草無キ時ハ代葉ニ

用ユ

百三

ウエルゲイツペリコン

右同前

但ウエルゲハ野ニ生スル意ト云

百四

リツケンゲイペリコン

右同前

但リツケンゲハ廣ダリ生スル意ト云

一何レモ油ニシテハ功能多シヲ、リヨムイツペリキイト云

百五

ハリツホウイ

阿蘭陀名

シトギリ草

アシキローン

ラテン名

一此實ヲ甘キ酒ニテ用ユレハ秘結ヲ通ス其

外ノ功能イツペリコシニ同シ

二百十五

スロイトルブロム

阿蘭陀名

フリ、ムラヘイリス

ラテシ名

サクラ草

一性温

一草根ヲ煎シ戦慄^{フルイ}アル人ニ用テヨシ又中

風ニモ用テヨシ

一花莖根氏ニラシビキニテ煎シ虚症ノ人ニ

用テヨシ

一花ヲ阿蘭陀焼酎ニ二三日浸置毒虫ノ螫

タルニ附テヨシ

一花葉氏ニ搗合セ腫物ニ附レハ痛ヲ去腫消ス

一草ノ煎シ汁ニテ頭痛スルニ頭ヲ度々洗

テヨシ

一花葉氏ニ食品ニ用ユト云

イーブルコロイト

阿蘭陀名

馬鞭草

ハルペナーカ

ラテン名

一此花葉氏ニ酢油ニ交セ七日漬シ頭痛ニ附

ケ木綿ニテ包ミシケハ甚ヨシ又花葉シ

其二、煎シ頭ヲ度々洗ヘハ頭痛ヲ治シ

髪ヲ長ス

一葉花ノ煎シ汁ヲ含メハ齒齲ノ痛ニヨシ

一根ヲ水ニ煎シ用レハ疝氣ニヨシ

一ウエニ酒ニ葉ヲ煎シ用レハ身内ノ諸痛

ヲ治ス

一葉ヲ七八日ホド酢ニ漬シ面ノ赤腫ニ附テヨシ

一葉ヲウエニ酒ニ煎シ用ユレハ黃疸ニヨシ

ヒヨラツテン

阿蘭陀名

和名ツボスミレ

ヒヨラア、

ラテン名

漢名紫花地丁

一性温

一此花ヲ二三日水ニ浸シテシキ熱アリ乾キ
アルニ飲テヨシ暑中ニ専用ユ

一花ヲ蜜ニ煎シ大便秘結スルニ用テヨシ

一花ヲラシビキニテ油ニ煎シトリ頭痛スル
所ニヌリ附テヨシ

一花ヲ日ニ干シ細末ニシテ酒ニ交セ虚弱
ナルモノニ用テヨシ

ラウレ、ケンス

阿蘭陀名

和名ヤマリンドウ

カンバーヌラウツトナアレス

漢名山龍膽

一性温

一此花ヲテリアカノ菜味ニ入ル

一此花トテリアカト交セト氣絶ナトノ急病ニ

用テヨシ

一花ヲ煎シ長病ニテ氣疲タルニ用テヨシ

一花ヲ酒ニ浸シヲキ毒虫又ハ牛馬ニ咬レタ

ルニ服シテヨシ

二百八十

フルエールブロム

阿蘭陀名

和名ケイトウ

ハシヨムエルートム

ラテン名

漢名 雞冠

一性温

一此花ヲ日ニ干シ細末シテ血止メニヨシ

一又花ヲ干シ鼻血ニ鼻ノ内へ入テヨシ

三百三

ウエツテレリイ

阿蘭陀名

和名白ユリ

レリイヨムアルボム

ラテン名

漢名百合

一性冷

一此葉ヲ打疵又ハ毒虫ノ螫タルニ附テヨシ

一此葉ヲ酢ニ十四五日モ浸シ突疵又ハ打

疵ヲ洗テヨシ

一 花ノ蕊ニ付タル粉ヲ取り酢ト蜂蜜ト等分

ニシテ煮腫物ノ愈ギハニ小瘡ノ出タルニ附テヨシ

一 根ヲ少シ燒搗ヒラメ火傷ニ附テヨシ

一 根ヲ煮膏菜ト交セ合腫物ヲ膿スルニ附テヨシ

一 花ヲ油ニ浸シシキ手足腫スクニタルニ附テヨシ

三百十二

ホンスタント

阿蘭陀名

カタクリ

テシスカニイヌス

ラテシ名

一 性温

一 此根ヲ煎シ齒齦ノ痛ニ含テヨシ又面ニ

醎ニシテノ出ルニ附テヨシ

レスリウフルセー

阿蘭陀名

和名イ千ハツ

コンセーカフーテレキス

ラテシ名

漢名弋鳥尾

一此根ヲ搗水ニテ用ユレハ腫氣ヲ消ス

一根ヲ細末シ砂糖ニ交セ合用テ胸痛ヲ

治シ又咳嗽ニヨシ

一根ヲウエシ酒ニ煎シ用テ石瘵ニヨシ又婦人

經水滯ルニ用テヨシ口中ノ臭キニ用テヨシ

アツコウロス

阿蘭陀名

菖蒲

一花根ニラシビキニテ油ニ煎シ耳ノ痒ニ

一二滴入テヨシ又筋ノ^{ヒキツ}癢ルニ塗土附テヨシ

レス

ラテシ名

一性温

一此根ヲ煎シ小便細ク澁ルニ用ユ又痲病ノ

類ニ用テヨシ

一此根ヲ煎シ腹痛胸痛ニ用テヨシ

一根ヲ搗汁ヲトリ眼病ニ用テヨシ又目ノカ

スムニ一二滴入テヨシ

一根ヲ日ニ干シ細末シ胸痛ニ用テ甚良シ

トウ子スブロム

阿蘭陀名

カウワウ草

フロストウ子テンセス

ラテン名

一性冷

一此花ヲ搗絞リ汁ヲ取身ノ節々痛ニ附テヨシ

一此草花葉根トニ甚毒アリ食スベカラズ

其證ニ犬猫ナトニアタヘ食シムレバ忽歿ス

一此實ヲ食粒ニ交セ鼠ノ出ル所ヘ置食シ

ムレハト歿ス

ゾンブロム

阿蘭陀名

和名ヒマハリ

フロスシリリス

ラテン名

漢名向日葵

一性冷

一此葉ノ筋バカリヲ取りホルトガルノ油ニ浸
シ用レハ腎ヲ補フ甚驗アリ

一此花日ニ向ヒ廻ル日ニ向フ所ノ花ヲ取り
額ニアツレハ頭痛ヲ快ス

四百七十四

ヘニケル

阿蘭陀名

茴香

セイメンヘニクリー

ラテン名

阿蘭陀人持渡ル茴香酒をア子ズル
此葉をアキ酒ニ交セ煎シ取ル酒ニ使ル

腹痛ニ用ユ吐ニモヨシ

一實ノ細末ヲ毒虫犬馬ノ咬タル時酒ニテ

吞ハ痛ヲ止テヨシ

一實ヲ細末シ砂糖ヲ交セ朝ノ婦人ニ用ユ

レハ乳汁ヲ増ス男子ニ用ユレハ氣ノ上衝

ヲ下テ眼中ヲ涼シム

一草葉ヲ日ニ干シ細末シ用ユレハ石瘰ヲ治シ

一性冷

一此葉ノ筋バカリヲ取りホルトガルノ油ニ浸
シ用レハ腎ヲ補フ甚驗アリ

一此花日ニ向ヒ廻ル日ニ向フ所ノ花ヲ取り
額ニアツレハ頭痛ヲ快ス

四百七十四

ヘニケル

阿蘭陀名

茴香

セイメンヘニクリー

ラテン名

一性温

一此實ヲ細末シテ腹痛ニ用ユ吐ニモヨシ

一實ノ細末ヲ毒虫犬馬ノ咬タル時酒ニテ

吞ハ痛ヲ止テヨシ

一實ヲ細末シ砂糖ヲ交セ朝々婦人ニ用ユ

レハ乳汁ヲ増ス男子ニ用ユレハ氣ノ上衝

ヲ下テ眼中ヲ涼シム

一草葉ヲ日ニ干シ細末シ用ユレハ石瘰ヲ治シ

小便不通ニモヨシ

一 實ヲ搗絞リ汁ヲ取眼胞ニ常ニ塗レハ

眼中ヲ涼シム

一 葉トスラ^{千廿}ト煎シ婦人ノ乳汁少キ

ニ用テ乳ヲ多クス

四百八十

ア子ーズ

阿蘭陀名

ア子イゾム

ラテシ名

一 第一内ヲ温ム此實ヲ細末シ白湯ニテ用ユ

一 咳嗽ヲ止メ小便ヲ通シ石淋ニヨシ

一 乳汁少キニ用テヨシ痢病ニモヨシ

一 口中ノ臭ニ實ヲ其マ、用テヨシ

一 痰ヲ治スルニ蜜又ハ砂糖ニテ實ヲ煎シ

用テヨシ頭痛ニ實ヲ嗅テヨシ

一 毒虫犬馬ナドノ咬タルニ酒ニテ用テヨシ

一 耳ノ痛ニ實ヲ搗口ウザノ油ニ交用テヨシ

コリヤンドル

阿蘭陀名

コリヤアノム

ラテン名

胡荽

一 實ヲ酒ニテ用ユレハ食ヲ消シ又虫ヲ下シ

小便ヲ通ス

一 實ヲ焙リ細末シ水ニテ用レハ婦人經水

大ニ下ルヲ止ム

一 實ヲ生ニテ細末シ魚肉ノ類ニカテレハ腐

爛セズ又腥氣ヲ去ル

シーストルルキイ

阿蘭陀名

アレシトロロヒヤン

ラテン名

青木香

一 根ヲ日ニ干シ細末シ酒ニテ用ユレハ諸毒ヲ

解ス又牛馬ナドノ咬タルニ此粉ヲ付テヨシ

一 此根ノ粉ニ胡椒ノ粉三分一交合婦人經水

滯タルニ用ユ妊婦ニ用ユレハ産ヲ易クス

ホウルシルトル

阿蘭陀名

ラアデキスカアハ

ラテン名

延胡索

- 一 腹ノ痛ニコハルニ細末ヲ酒ニテ用テヨシ
- 一 此粉ヲ蜂蜜ニ交セ金瘡ニ附レハ惡物ヲ去リ愈易シ

- 一 根ヲ水ニ煎シ口中ノ痛或ハ齒齲腫痛
ハニ用テヨシ

カルフスフウト

阿蘭陀名

ア、ロシヒツトリ

ラテン名

芋

- 一 根ヲ水ニ酢ヲ加ヘ煎シ用テ喉痺ヲ治ス
- 一 根ヲ細末シハシリコムト交合セ痔ノ痛ニコシ
又一匁ホド酒ニテ用レハ腹ノコハリヲ治ス
- 一 根ヲ細末シ口中ホウヅキノ如ク腫タルニ用テ良
- 一 根ヲ細末シ腹中ノ虫ヲ下ニ用ユ又腹痛ニモ良

一 根ヲ牛糞ト搗合セ手足ツヨク痛又ハ痒
ニ有ニ附テヨシ

一 根ヲ日ニ干シ細末シ一匁砂糖ニ匁合セ白
湯ニテ用テ胸痛ヲ治ス

一 根ヲ燥キ水システ再煮テ食物トス

五百四十九

カアリガン

阿蘭陀名

香附子

チーペルス

ラテン名

一 根ヲ日ニ干シ粉ニシ久ク愈カ子タル疵ニ日々

フリカケテヨシ

一 又粉ヲ酒或水ニテ用レハ石瘰ヲ治ス婦人

經水滯タルニヨシ

一 根ヲ水ニテ煎シ用レハヨク腫氣ヲ消ス

一 根ヲ燥キ木綿ニ包ニ鳩尾先ノ痛ムニ

當テヨシ

一 根ヲ膏菜ニ合セ腫物ニ附レハ痛ヲ止メ

ヨク膿ス

五百五十八

サラモンスセイゲル

阿蘭陀名

和名アミドコロ

シギロムサラモニス

ラテン名

漢名萎蕤

一 根ヲ搗金瘡ニ附レハ早ク愈ユ

一 根ヲ煮木綿ニ包ニ身面或ハ目ナド色ド

リ腫タルニ蒸茶ニ用ユ

一 葉ヲ啗食レハ頭痛ヲ治ス

一 根ヲ煎シ用レハ石瘰ニヨシ又小便閉ヲ通ス

但シ五百六十黄精モ切用同シト云

六百七十五

ハイテンブラツト

阿蘭陀名

和名スヒカツラ

カアプリホウリヨシ

ラテン名

漢名忍冬

一 實ヲ小便ノ澁ルニ用テヨシ胸痛ニモヨシ

一 實ヲ妊婦ニ用ユレハ胎ヲ落ス

一 葉ヲ煎シ頻ニ用レハ女人懐妊セズ

クウケンシキヤレイ

阿蘭陀名

和名千ゴバナ

ホルサアテラシ

ラテニ名

漢名白頭翁

一花葉氏ニ煎シ少シ用之ハ盗汗ヲ治ス

一葉ヲ火ニ焙リ火傷ニ付テヨシ

寛保二年壬戌三月

野呂元丈和解

阿蘭陀外科

ムスクルス

大通事

中山喜左衛門

小通事

茂七郎左衛門

二十五 アツプセシテヨム

八百十六 黍

八百十七 薏苡

八百十七 粟

九百四十四 款冬

九百五十四 蒲

九百五十五 莞

九百六十九 甜菜

九百八十七 柴胡

千三十二 馬齒莧

千三百三十二 子ツサシ

甲子 阿蘭陀本草和解

一アツプセシテヨム

ラテン

一アリスト

ラテンダ

性熱小シ燥ク

一花葉ヲ水ニ煎シ又酒ニ入吞ハ氣ノ逆上ヲ下スニヨシ

一又胃中ノ傷ミニヨシ

一又痰飲口中ノ子バリヲ解ス

一又食滯ニヨシ

一又強キ熱ハリ醒ス

但シセニヨリ廿九ニテ蒿ノ類ナリ其内
廿五藥用ニ上品ト云青蒿ノ生草ヲ
阿蘭陀人ニ見セシニ是ナリト云然レ未
詳ナリ廿九セイアツプセシテト云
海邊ニ生スル義ト云埃圖苗陳ニ似リ切同ト云

一花葉ヲ燒酎ニ入日乾シ滓ヲ去リ用ユ塊名ヲ
テシキトールアツプセシテイト云

一右ノ切吐血ニヨシ

一熱ニ病ニヨシ

一虫ヲ下スニヨシ

一口中ノ臭氣ヲ去ル

一腹痛又腹ノ張ニヨシ

一黃疸ニヨシ

一吐逆ニヨシ

一花葉ヲ酢ニ漬セハ毒藥ホトナル

一花葉ヲ乾シ細末シ蜜ニ合セ打目又打身ニ附テヨシ

一莖葉ヲ乾シ衣類内へ入ラケハ虫生セズ

一又水ニ煎シソギカクレハ其所へ鼠来ラズ

一又水ニ煎シ面皰ニキレニ附テヨシ

一又下血ニヨシ

一又搗絞リ汁ヲ頭痛ニヌリテヨシ

一又莖葉ヲ乾シ死人ノ腹ヲ割キ臟腑ヲ取出シ

是ヲ入ラケハ数十年ヲ經テ體朽キズ

八百十六

一ギイユルス

ラフシタ

和名

キビ

一ミリヨシ

ラテシ

漢名

黍

一實ヲ搗碎キ熟杵ト搗交セ腹痛又痢病ニヨシ

一實ヲ炒熟シ袋ニ入腹コハリ痛ムニ温テヨシ

八百十七

一セントヨツプス

ラフシタ

和名ズ、タマ

一ラキレーミーヨヒイ

ラテシ

漢名葛薏苡

一實ヲ搗碎キ水煎シ用テ石麻ニヨシ

一實ヲ細末シ麦粉ニ煉合セ毒虫蝨タルニ附テヨシ

八百十七

一パンニクヨウルン

ラフシタ

和名アハ

一パニクラ

ラテシ

漢名粟

性微寒

一實ヲ野牛ノ乳ニテ煎用テ腹痛又痢病ニヨシ

一實ヲ麦粉ト煉合セ赤ク腫痛所ニ付テヨシ

一ペターシリーテス ラテン

和名 フキ

一ペステレレシイソルトル 根ヲ云

一ドツケブライートル 葉ヲ云

漢名 款冬

性温

一 根ヲ乾シ粉ニシ用レハ汗ヲ出ニヨシ

一 又毒ニ中タルニ酒ニテ用テヨシ

一 又虫ヲ下ニヨシ

一 又小便ヨク通ス

一 葉ヲ搗碎キ久瘡穴アキタルニ附テヨシ

一リスドツデン ラテン

和名 カハ

一テイハアクワデーカ ラテン

漢名 蒲

一 坎花九キ莖アリ綿ノ如シ耳ニ入ハ耳龍耳ス

一 花ヲ猪油ニ交合テ火瘡ニ附テヨシ

一マワトゴロセ ラテン

和名 フト井

一ヨシコスアクテス ラテン

漢名 莞

一 實ヲ吞ハ人ヲ能眠ラシム

一又實ヲ炒テ酒ニテ吞ハ痢病ニヨシ
一 根ヨリ出ル短葉ヲ毒虫螫タルニ附テヨシ

九百六十九

一ロートテ(一)テ

和名 フダンサヲ

一(一)タア

漢名 甜菜

性微寒

一 根 莖葉氏ニ脾ヲ能調フ

一 又 水ニ煮汁トモニ食スレハコハリ腹ヲ和ク

一 又 煮汁ヲ嗅ハ風邪等上衝ヲ下ス

一 又 根ノ皮ヲ去リ塩ヲ付紐結ニ肛門へ指テヨシ

九百八十七

一 プレロン

ラテシ

漢名 柴胡

性温

一 此草ヲ搗碎キ毒虫ノ螫タルニ附テヨシ

一 葉ヲ水蒸シ金瘡ヲ洗テヨシ

一 又 煎汁ヲ吞テ胞衣下ヲサルニヨシ

一 葉ヲ搗碎キ塩ヲ入喉腫タルニ附テヨシ

一又石麻ニヨシ

千三十二

一ホルセレイン

ラシタ

和名スベリヒユ

一ホルトリーカ

ラシタ

漢名馬齒莧

性冷

一煮食スレハ胃ヲ壯ニシ涼シメ又血氣ヲ輕クス

一葉ヲ嚼シボレハ齒クキヲ強クス

一又露ヲ口ニ含テ功同シ

一又小兒ノ虫ヲ下ニヨシ

一又熱ヲ解スルニヨシ

一根ヲ乾シ細末シ蜜ト煉合テ唇烈損シタルニ附テヨシ

一又手足皸裂ニヌリテヨシ

千三百三十二

一セ子ーブル

ラシタ

和名子ツサシ

一ユニペルス

ラシタ

又ベボウ

性温

一實ヲ煎シ水ヲ取用テ小便ヲ能通ス

一又胃中ヲスカス

一又毒ニ申タルニ吞テヨシ

一又胸中ヲ和クルニヨシ

一又咳嗽ニヨシ

一又腹コハリ痛ニヨシ

一又打身ニ吞テヨシ

一又小兒ノ咳止カタキニ用テヨシ

一又能熱ツ下ス

一此木ヲ家ノ内ニテ焼ハ虫ヨラズ

一葉ヲ搗碎キ汁ヲ取毒虫螫タルニ附テヨシ

一皮ヲ焼タル灰ヲ水ニテ解キ小瘡ニ附テヨシ

一此木ヲ焼煙ヲ嗅ハ精氣ヲ強シ風邪ヲ去ル

一根葉ヲ酒ニテ煎シ吞ハ腰痛ヲ治シ又小便ヲ通ス

一實ノ油ヲ痔瘻ニ附テヨシ

一又腰脊ノ痛ニヨシ

一又油ヲ一滴耳ノ内ニ入レハ耳ノ痛ヲ止龍耳ヲ治ス

一又油ヲ齒クキニ附テ痛ヲ治ス

一木ヲ灰ニ焼煎タル水ト酒ト合セ一日ニ四五度吞ハ

小便不通ニヨシ他藥驗ナキ時極テヨシ

一此木ニテ製衣タル炭香ヨク久ク夕モツナリ
一此木ヲ燒ハ一切疫疾と瘡瘍等ヲ除ルト云

延享元年甲子三月

野呂元丈和解

阿蘭陀外科 ムスクルス

大通詞 今村源右衛門

六百三十七

大黃

七百六十三

石韋

九百九十八

苦菜

千五十七

蘿蔔

千六十

胡蘿蔔

千七十四

葱

千二百三十八

枸櫞

千二百七十七

胡桃

千二百九十一

櫛

千三百三

椎

千四百六十八

生姜

阿蘭陀本草和解

六百三十七

ラバルベル

大黃

但唐藥ユヘラテーンノ名ナシ功能モ詳ニ記サスト云

水ニ煎シ或ハ膏トナシ用ユ瘡腫又秘結一切瀉下ノ

藥ニ用ユ

七百六十三

ハルツトシゴ

石五

性澁

一下血ニ用テヨシ

ハアヒツキス

ラエダ名

ヒラヒシラム

ラヒシ名

苦菜

性寒 微ク澁ル

一 蝎ニ螫レタルニ莖葉ヲ搗汁ヲ附テヨシ

一 莖葉ノ汁ヲ飲テ脾ノ痛ヲ止ム

一 毒蛇ニ螫レタルニ此汁ヲ酒ニ入飲テヨシ

一 身體ノ痛ニ附テヨシ

一 此汁ヲ飲テ疾ヲ化シ不寐ノ人ヲ能眠ラシム

一 此汁ヲ小瘡面瘡ノ類ニ附テヨシ

一 毒ノ痛ニ附テヨシ

千五十七

ケレイシラブテイス

シラエタ名

ラアデキスカラハコリス

ラヒシ名

菑蘿蔔

性温

菜トシテ食ス藥用ニナサズ但シ常ニ食スレハ腹中ノ

土砂ヲ下ス根ヲ煮タル汁渴ヲ止メ疾ヲ化ス

千六十

ゲル^黄ル^根トル

ララ^ダ名

ラア^デキス^レテ^イル^ト

ラテ^レシ

胡蘿蔔

性冷

菜トシ食スルノミ薬ニ用ヒズ

千七十四

シ^レエ^シ

ララ^タ名

葱

セ^イバ

ラテ^レシ名

一婦人虚症ニテ經水不通ニ多食シテヨシ

千二百三十八

セトロウ^シアツプル^ボム

枸椽

一坎實ノ汁ヲ絞リ酒ニ入飲ハ脾胃ヲ補フ

一又薄ク片キ燒酒ニ入飲食ハ食積ヲ消シ小便ヲ

利シ氣滯ヲ散ス

千二百七十七

ラウ^クル^ノラ^ト

ララ^ダ

胡桃

コガ^ラレ^カナ^デレ^シス

ラテ^レシ

性温燥ク

一此実ヲ食シテ消シカ子脾ヲ損ス

一多食スレハ頭瘡ヲ生ス疾症ノ人尤不空

一此実ト柿ト合シ食スレハ酒毒ヲ解ス

一此ト葱ト塩ト蜜ト交テ人犬咬傷ニ附テヨシ

一此実ヲ啗爛シ腫物ニ附シハ痛ヲ和ク

一此實ノ皮ノ嫩ナル者千蜜漬ニシテ味ヨク精氣ヲ益シ

氣カヲ強クス

一此皮ヲ搗汁ヲ飲テ咽ノ腫痛ヲ治ス

一此葉ヲ煮テ浴スレハ汗ヲ發ス

千二百九十一

エーケレボウム

ラフンダ名

櫛

一実ヲ食シテハ不佳猪ノ類ニ飼テヨシ

一葉モ皮ノ内ノ薄皮モ性同シ

一女人血崩ニ酒或ハ水ニ煎シ用テ止ム

一葉ヲ搗血止ニス

一葉ヲ舌ノ上ニシケハ胃火ヲ醒ス

一湯火傷ニ附テヨシ

ベウーケンボーム

ラシダ名

椎

性冷微澁

一實ノ味甘ク小澁ル性熱湿ヲ小鳥好テ食ス又猪ヲ飼フ

一此ヲ食シテ腎ノ痛ヲ治ス

一血痺ニヨシ

一此木ノ灰ヲ硝子ヲ制衣スルニ専用ユ

一葉ヲ絞リ汁ヲ腫物ノ初及後ニ附テ熱ヲ醒ス

一葉ヲ暫ク口中ニ含ムツルノ瘡ニヨシ又毒クキノ痛ニヨシ

ゲンブル

ラシダ名

セトアリヤ

ラシダ名

生姜

性大熱

一沙糖ニ漬菓子トスルノミ藥ニ用ヒズ

寛延三年庚午三月

野呂元丈和解

阿蘭陀外科

トシゲデエブルス

大通詞

名村勝右衛門

小通詞

西善三郎

七百六十七

ラテシ カワペロスヘーム子レス

七百六十八

ラテシ ゲメーシカワペロスヘー子レス

七百六十九

ラテシ テレゴーマア子ス

阿蘭陀本草和解書付

ラテン
カワペロスヘー子レス

フロウハールギン

石地小抄云々
書前ハ海草此節二ツの赤
湯屋ハも蒸梳ハ種之
云々小生ハ他ハ生ハ
花實ハ草履草汁ハ

此葉ヲ日ニ干細抹ニシテ水又ハ酒ニテ用ヒハ得ハ痲病
石麻吉

此葉ヲ搗木綿ニ包頭髮杯ニ包兼ハ所ニ付重
得ハ髮生シハ病氣杯ニテ髮抜ケ又ハ

水ニテ濃ク煎シ塗付ルハ髪生シ

生葉ヲ酒ニテ煎シ用ヒハ胸之痛ヲ治ス人扱カ

おりのいゝ婦人月水滞タルニモ用ヒテ

此草と五法くみ白多んきう一法くみ童便と糞婦人

産後腹小恙と有之所一日ニ三度程塗付ハ治ス

思ふくう小成

此草と生ニテ鶴杯用ヒハ口ハ氣と増就合の

七首拾八

ラテシ
ゲメーシカツペロスヘー子レス

ステーシロイテキ

石炭りの多味小也くちし
ち花實たニ産草斗也
四重んハ産

此草功能落く此産むカツペロスヘー子レス フロウハル

ラテシ
ゲメーシカツペロスヘー子レス

所産
ステーシロイテ

七首拾八

水ニテ濃ク煎シ塗付ルハ疥ハ發生シ

生葉ヲ酒ニテ煎シ用ハ胸之痛シクハ人扱

おりのい〜婦人月水滞タルニモ用ヒテ

此草と五法〜白多ん〜一法〜童使と實〜婦人

産後腹小〜有之所〜一日〜三度程塗付ルハ

思ふ〜り小成

此草と生ニテ鷓杯〜用ハ〜氣と増就合の〜

七首拾八

ラテ

ゲメーシカツペロスヘー子レス

ステーシロイテギ

石集りの多味小知〜

高花實た〜草中

四重〜

此草功能落〜此草むカツペロスヘー子レス フロウナル

之由産時ハ代茶〜用ハ

七百六拾九

ラテン
デレゴーマア子ス

ウエイドロドート草

多量小量とも同様の薬効を有する花葉類
草類草斗少くは同様の性質

此草デヨースコーリテス英ガレーヌスに於て人の外科

立合の上吟味仕向カワペロスヘー子レス功能同前

御座候得た薬力弱く此座候時常小用ひるべき

カワペロスヘー子レス之座候時ハ代葉用ひるべき製法

同前此座候

右外科に於ては必ず相守書面之趣和解せしむべき

中山薬房

成
三

ラテン
デレゴーマア子ス

阿蒙泥
ウエイドロドート

七百六拾九

中山薬房

七百六拾九

ラテン
デレゴリーア子ス

ウスイドロドリート草

多岐小丸よりPの葉の形を花實た、
草履草斗少しは季た、内庭の

此草デヨースコーリテス英ガレーヌスけあ人の外料

立合の上吟味仕ぬカワペロスへー子レス功能同前

御座の得た葉カワペロス内庭の常小用ひるPのむ

カワペロスへー子レス之内庭の時ハ代葉、内庭の製法

同前、内庭の

右外科ひ次の家す相守書面之通和解者上Pの望

成
三片

中山教人

後七郎

六百五十三 サツサハレ 千三百六十一 乳香 千三百六十五 騏驎竭

千三百六十六 龍腦 千三百六十七 沒藥 千三百九十 巴豆

千三百九十一 檳榔 千三百九十三 肉豆蔻 千四百十七 芭蕉

千四百四十 胡椒 千四百四十八 縮砂 千四百五十二 茺蔚子

千四百五十三 肉桂 千四百六十三 サツサフス 千四百七十三 土茯苓

千四百七十五 甘藷 千四百七十九 甘松香 千四百九十一 珊瑚

乙 丑 阿蘭陀本草和解

六百五十三

一サツサハレイル

ラテシ名

一ステーケンデエシテ

ララシタ名

性温燥ク

一汗ヲ出ニ煎シ服ス

一風邪悪寒ニモ同シ前

一小便ヲ能通ス

其外ノ功用サツサフラスニ同シ

千三百六十一

一レシテスケスマステキ

性温

乳香

一腹中ノ瀉スルニ用テヨシ

一吐血ニ用テヨシ

一月水ノ多ク止ルニ用ユ

一水ニ煎シ口中ヲ洗ヨシ常ニ含テヨシ

一没薬ト合シ燒テ邪氣ヲ去ル

千三百六十五

一ダラアカボウム シラシタ名

一タラコアルル ラテン名

騏驎竭

一婦人月水多キニ用テヨシ

一瀉痢ヲ止ル方中ニ入用ユ

一吐血ヲ止ルニ用テヨシ

一蠟ト合テ火傷又スリハギ疵ニ附テヨシ

千三百六十六

但圖ナシ

一カン普拉ボーム

ララシダ名

一アルホルカンプラ

ラテシ名

龍腦

一專ラ目薬ノ用ニ入

一氣ノ遠クナリ昼夜眠キニ鼻ニ嗅テヨシ

一小瘡或ハ腫物ノ初發ニ燒酒ニ漬レ附テヨシ

一痒疹ノ類ニ塗テヨシ

一鼻血ノ出ルニ嗅テヨシ

千三百六十七

但圖ナシ

一メラボウム

ララシダ名

没薬

一ミラアルホル

ラテシ名

性温味苦

一胸ノ痛ニ指先ホド用テヨシ

一風邪ノ熱ニ胡椒ト等分合シ水ニテ用テヨシ

一牙齦ノ腐爛タルニ水ニ解テ含テヨシ

一アツプセンチテノ如ク酒ニ入吞テヨシ

千三百九十

一 プルケールンデハーツルノート 巴豆

一 インデヤンスハーツルノート 大ノ圖

但 プルケールンデハ 瀉下ノコトナリ

此物瀉下甚キニヨリ薬用ニスルコト稀ナリト云

千三百九十三

一 ノートムスカアト フラシダ名

肉豆蔻

一 ノクスムスカアト フラシダ名

バンダア國ニ生スホ梨ノ如ク葉四時青シ一年ニ
三度ツ實ナルワカ枝生ル時實生ス花ノコトナシ

性温 澁ル

一 腹中ニ風邪ヲウケタルニ用テヨシ

一 寒氣ニテ小便ノ澁ルニ用テヨシ

一 疝氣ニ用テヨシ

一 心氣塞リ疲レタルニ用テヨシ

此油 但 シメドリニスルナリ

一身ノ中冷タル所ニ塗テヨシ

一 女人腹冷痛ニヌリテヨシ

一 復月痲疹ノ類ニ塗テヨシ

千三百九十一

一 アレイキ
ララエタ名

一 カルカア
ラテン名

楨椰子

性冷

一 腹中滞タルニ粉ニシテ水又ハ酒ニ用テヨシ

一 粉ニシテ水ニ和シスリハギタル所ニ附テヨシ

一 又頭痛ニ額ニ附テヨシ

一 又齒ノウキタルニ水ニタテ含ミテヨシ

一 又常ニ食シテ牙齒ヲ堅クス

一 吐血ニ食シテヨシ

千四百十七

一 ピーサンプラール
ララエタ名
芭蕉

一 共實ヲ食シテ中ヲ涼クス

千四百四十

一 此葉ヲ下ニシキテ臥ス但極暑ノ節用ユ

一 スハルトペーブル

胡椒

性大熱

一 食料ニ專ラ用ユ但少ク用ユ多用シハ熱氣人ヲ害ス

一 五臟ヲ温ル藥中ニ用ユ

一 小便ヲ能通ス

一 風邪或瘧疾ニモ二十粒ツ酒ニテ用ユ

但シ服藥ニハ九ナカラ用テヨシ粉ニシテ用シハ熱強ク

中ヲ燥シ子ヲ生セヌ男女トモニ慎テヨシ

一 粉ニシテ蜜ニ和シ耳ノ下ノ腫タルニ附テヨシ

千四百四十八

一 カルタモム

縮砂

性温

一 水ニ漬シ汁ヲ服シテ竹肋骨ノ痠タルニ用ユヨシ

一 又氣塞リ上部ノ重ニ用テヨシ

一又氣上セテ狂氣スルニ用テヨシ

一又食毒ヲ解ス

一又小便ヲ通スルニヨシ

一又腹中ノ虫ヲ下ス

一酢ニ漬シ毒虫ノ蝨タルニ附テヨシ

一又水虫ニ附テヨシ

千四百五十二

一ペーレン

シラシダ名

肉桂 キンニ

性温

此葉ニテ棋椰子ヲ包ミ食ス功棋椰子ニ同シ

千四百五十三

一カ子ール

シラシダ名

肉桂

一シナモシ

ラテン名

性温

一氣付ノ薬ニ入ル

一瀉利ニ用テヨシ

一月ニ二三度ツ、料理ニ用テヨシ

一經絡ヲ通ス

一口中ノ臭ニ常ニ用テヨシ

一小便ヲ通スルニヨシ

一腎氣弱キ人常ニ用テヨシ

一肉桂テリヤカ等分合シ毒藥ニ中リタルニ用テヨシ

一女人月水滯ルニ用テヨシ

一癩癧ニ水ニ漬シ汁ヲ用テヨシ

千四百六十三 圖ナシ

一サツサフラスホウト

功能サツサハレルニ同シ

一細ニ切頭ニ掛レハ邪氣ヲ除ク

千四百七十三

一シイナシルトル クランゲ名

土茯苓

一ラアデキスミイナ ラテン名

シイナ 支那ニ生ス莖葉ヲ不用根ヲ用ルニハシイナシルトルト云

性温

一楊梅瘡スハリスホツラノ湿熱深キニ用ユ但シサツサフラス

ホ瘡ツコホウト木 千四百六十二圖アリ共ニ煎シ服ス

支那ニテノ用ヤウ悉ク記タレ圧解ガタキヨシ外科云

千四百七十五

一パオトス

甘サ諸

食料トス切能ハ不載ト云

千四百七十九

一スベツキナルデス

甘松香

性温

一小便ヲ通スルニ煎服シテヨシ

一又嘔吐ニ用テヨシ

一水ニ漬シ眉毛鬚髮ノ脱ニ常ニ附テヨシ

一月水滞タルニ此水ヲ服シテ通ス

一香具ノ用ニ入ル

千四百九十一

一 ^赤 ^玉 口トコラア

ヲラシタ名

一 コラアロムルホム

ラテン名

性寒

珊瑚

一 粉ニシテ水ニテ用小便ヲ通ス

一 又吐血ニ用テヨシ

一 又痢病ニ用テヨシ

一 又熱ヲ醒ニヨシ

一 又月水多キヲ止ム

延享二年乙丑三月

野呂元丈和解

阿蘭陀外科 ムスクリス

大通事 末永徳左衛門

小通事 榎林重右衛門



